

かまにし

発行 地域力推進蒲田西地区委員会
編集 地域情報紙編集委員会

第94号



くりらぼ多摩川での支援の様子

安岡達郎さんにはノミガワスタジオ（霊山橋近くのブックスタジオ）で取材をいたしました。安岡さんは「くりらぼ多摩川」や「呑川の会」の活動を通じて子どもたちや地域の方に貴重な体験を提供しています。

安岡さんは昭和二十五年に墨田区両国に生まれ、大田区東雪谷一丁目に生まれ、小池小学校、石川台中学校、大森高校を卒業されました。法政大学工学部の土木工学科を卒業し、鹿島建設に入社、就業時の仕事は土木構造物の設計とエネルギー関連プラントの施工でした。平成七年に西蒲田一丁目に来



わがまの顔

やすおか
安岡

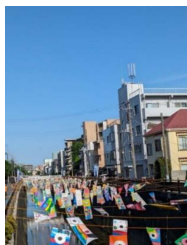
たつお
達郎 さん

られました。退職後は、大田区の呑川の会で、小学校の授業サポートや、くりらぼ多摩川でのものづくりの相談、ワークショップをやっています。

くりらぼ多摩川では、自身が直接ものを作るのではなく、物作りの作業の指導をしています。子ども、母親に大工仕事で本物を使い、のこぎりの使い方、かなづちの使い方を指導し、図面の書き方も教えています。これまでは、学校の夏休みの自由工作での指導を行い、ロッキングチェア、ベッドサイドに置く台、椅子などを作成しました。子ども達の育成の為に物作りを通して考え、作成して物事を学んでほしいという願いから活動を行っています。

また、呑川の会ではおなづか小学校などの学習支援、大田区エコフェスタのカワセミ工作などの指導をしています。

呑川の会は一九九七年に大田区に作られた市民の会で、呑川の歴史、生物、水などについて調べて



呑川 子ども鯉のぼり祭り

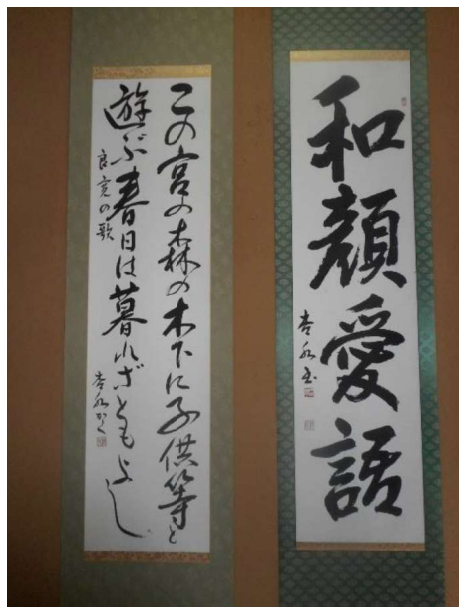
います。古代からの変遷や、鳥や魚の観察、水質の変化、洪水、植物の生育などを調査し、報告しています。

呑川の会では子ども達に未来について考えてもらう為に呑川の知識を知ってもらいたいという事から、それをきっかけに話し合い、子ども達に鯉のぼり作りの指導を始めました。毎年五月のゴールデンウィークには霊山橋から妙見橋にかけて小学生が作る鯉のぼりを制作指導、展示をしています。

今年近隣の小学生約二百人が参加した「子ども鯉のぼり祭り」は第四回景観づくり大賞の「景観まちづくり活動部門賞」を受賞、呑川の会としては自然保護活動や自然保護知識の普及に成果があった団体に贈られる日本自然保護大賞二〇二三の「選考委員特別賞」を受賞しました。

鯉のぼりの季節になったら呑川に出かけご覧になったらいかがでしょうか。

（取材 青木・中田委員）



左に「良寛の短歌」右に「道元の言葉」が書かれています

「ご存じですか？」 和顔愛語 この宮のく

多摩川一丁目（旧安方町）に鎮座する安方神社。本殿の東側には社務所があり、神社行事等に利用されています。

昨年九月二十八日と二十九日に五年ぶりとなる例大祭が開催されました。この直前に新たな掛け軸が社務所の床の間に掛けられましたのでご紹介いたします。

左の写真をご覧ください。「和顔愛語（わげんあいご）」は鎌倉時代

の禅僧、道元（一一〇〇～一二五三）の言葉で「人を慈しみ、思いやりの心を持つ」という意味です。「この宮の森の木下（こした）に子供等（ら）と遊ぶ春日（はるひ）は暮れずともよし」は江戸時代の禅僧、良寛（一七五八～一八三二）の短歌です。良寛は「子供の純真な心こそが誠の仏の心」と解釈し、子供達と遊ぶことを好みかくれんぼや手毬をついたりしてよく遊んだといえます。

掛け軸を書いた安方南町会の戸谷悦子（雅号・杏水）様に、お話を聞きました。

☆ ☆ ☆
書道教室を開いて二十数年たちます。「心技両輪」「清らかな美しい心の書」をモットーに中国の東晋時代（三一七～四二〇）、唐時代（六一八～九〇七）の古典や日本の平安時代（七八四～九二二）の書、空海（七七四～八三五）や良寛（前掲）の書を勉強しています。

安方神社の境内でシニアの方々がボール遊びをしたり、子供達がボール遊びをしたりして憩いの場となっているのを見て、良寛の世界を重ねる思いで書きました。

☆ ☆ ☆
昨年大河ドラマ「光る君へ」では枕草子や源氏物語といった日本が世界に誇ることで文学の作品が毛筆で誕生する場面が描かれました。私たちが身近な場所でも書道を学ぶことができるということはとても幸せなことなかもれません。

（取材 岡・大良委員）

♡結婚おめでとう♡いね♡♡♡♡♡
生粋の「蒲田芸人」として活動されているお笑い芸人「ライス」の田所仁さんが結婚されました。おめでとございます！



蒲田西特別出張所管内

人口	男	33,409 人
	女	30,736 人
	計	64,145 人
世帯	38,892 世帯	

令和7年5月1日現在

「かまにし17」でウェブ検索するとカラー版を見ることができますよ！

「かまにし17」をお読みいただき、ありがとうございました。ご意見や感想、または投稿などございましたら、事務局までお寄せください。

事務局 蒲田西特別出張所
大田区西蒲田七二二二
電話 373214785

就任のあいさつ
令和七年四月一日付で蒲田西特別出張所長に就任いたしました、飛田真紀子と申します。

地域力の拠点として皆様と共により良いまちづくりを目指す特別出張所で、このような重要な立場を任せていただくことになり、身の引き締まる思いであります。

皆様のご協力とご支援を賜りながら、蒲田西地区の更なる発展に貢献できるよう、職員一同全力で取り組んでまいります。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



アーケードができる前の西口本通り商店街（昭和40年代）



コスプレは大田区蒲田が発祥の地の一つだそうです。



蒲田駅西口にて落成式（左から大田区産業経済部長、平大臣、鈴木大田区長、森田振興組合理事長、蔵方蒲田西地区自治会連合会長、東京都地域産業振興課長）

蒲田駅西口にデジタルサイネージ

五年後、十年後を見据えて
目指すところは「新しい連携と共創による社会環境に適応推した魅力あふれる商店街」。

- ①店のマーケティングやPR力の強化
- ②今後メインターゲットとなるファミリー層との距離を縮める協同体制を構築
- ③資産を活用する

という三つの柱を掲げて実現に向けて一歩踏み出そうとしています。その一つがデジタルサイネージだったんですね。

持続できる商店街へ
五十年ほど前から商店街に店を構える三見電機がビジョンの設置

駅前広場でイベント開催
蒲田西口商店街は年間を通じて様々なイベントを開催します。GWには蒲田ファミリフエスティバル、メイン会場は蒲田駅西口広場です（上下写真は商店街HP）。夏には夏祭り、十月にはハロウィン（仮装メインからハロウィンスタイルラリーや仮装フォトコンテスト）に、年末にはクリスマスコンサートやガラポン抽選会などを実施し蒲田駅西口にはイルミネーションが点灯して冬の夜空を彩ります。

デジタルサイネージとは・・・

デジタル技術を利用して情報や広告を表示する技術のことで従来の紙やポスターの代わりにデジタルディスプレイやモニターを使用して動画やイラスト、音声案内などを表示します。鮮明な映像や音声を活用して効果的な情報伝達とリアルタイムでの更新が可能です。

に携わったといえます。同組合の理事を務める三見電機の金塚佑太社長は「蒲田西口がワンストップ飛躍すればと思います。地域が発展しないと、人が来ないし、シャッター通りになってしまいます」と強調。今後も蒲田に愛情を注ぎながら、商店街復興の一助を担うことに意欲を示されました。

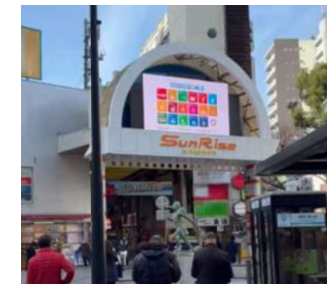
各店の商売がうまくいくように商店街が中心となって地域を盛り上げていきたいと金塚理事からお話をお聴きました。私達も地元で楽しみながら買い物をしたいと思っています。これからも期待しています。（下山・伊藤委員）



開市を経てアーケード誕生
本紙第五十五号で蒲田駅西口にあった開市について紹介いたしました。戦後の開市の時代を経て、商店街が形成されたのは昭和三十年頃でした。サンロードアーケードは昭和四十年、サンライズアー

未来を創る商店街
大田区・東京都の補助金を活用して蒲田西口サンライズビジョンは誕生しました。設置場所は蒲田駅西口のサンライズ商店街アーケード入口です。大田区が振興組合と連携して行政情報を発信し、組合に加盟する百五十店舗の紹介コンテンツを放映することになります。地域の発展に寄与することが望まれます。

振興組合から案内状
蒲田西口商店街振興組合からデジタルサイネージ看板の落成式（二〇二五年四月五日）の案内状をいただきましたので行つてまいりました。森田理事長から「ご家族や訪日客の皆様へ情報を伝達したい」、鈴木大田区長から「地域情報を発信して区の新たなランドマークとなつてほしい」、平デジタル大臣から「多様な飲食物販のあるカオスな蒲田の良さを活用してほしい」とお話がありました。



サンライズアーケード入口のデジタルサイネージ設置前（左）、設置後（右）

ケードは昭和五十二年に完成し、蒲田西口商店街振興組合が発足しました。